



梅の健康面への新たな試みとして梅種子炭の機能性を発信するとともに「持続可能な原料調達への試み」と「地域社会の貢献」に取り組んでいます。



発明の名称

梅種子の炭化物およびこの梅種子の炭化物から成る植物成長促進材並びにこの梅種子の炭化物の製造方法

特許第 6667917 号

お問い合わせ ☎649-1522 和歌山県日高郡印南町古井 391 番地の 1

ビオトープ資源循環部 (高機能炭和歌山研究所) TEL0738-45-0834 代表 中田 稔

梅の種子をそのままの状態（種の内部に仁がある状態）で炭化するとともに、炭化の形態についてはタール成分などの燃焼成分が存在しないように（燃料としての炭として機能しないように）炭化することによって、一般的な炭と比べて様々な効果が発現する炭となり得るという知見を得るに至った。

また、このようにして作製した炭は、5,000Ω以下という低い電気抵抗値（高い導電性）を示すものであった。

特許登録に至るまで

- タールを含まない無機炭を開発した。
- 梅種子の炭化物であって、電気抵抗値が5,000Ω以下であることを特徴とする梅種子の炭化物。
- 梅種子の無機炭（特に、殻の部分の炭化物）が有する細孔が土壤中や水中の不純物を吸着することから植物の成長を阻害する要因を排除することができる。

さらに、梅種子の無機炭は、内部に仁の炭化物を含有するものとなることから、仁の成分（K、Ca、Mgイオンなど）を土壤中や水中に溶出させることができる。